

船小ハイブリッドパワー

— 学校と家庭を結ぶ —

校長室だより No.6

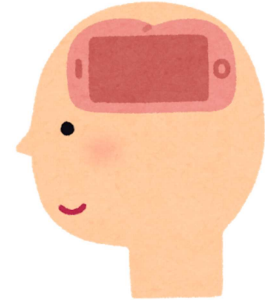
“やさしく かしく たくましく”
～ 本気と礼節の教育 ～

令和3年6月18日 文責:安生昌弘

◆ “スマホ脳” に学ぶ

スウェーデンの精神科医アンデシュ・ハンセン氏の著作『スマホ脳』が世界的に注目を集めています。「スティーブ・ジョブズ(アップル・コンピュータ社共同設立者)はわが子になぜ iPad を触らせなかったのか」というキャッチコピーのお陰もあるのですが、IT 企業の幹部たちが自分の子どもにスマホやタブレット端末、ゲーム機を与えないという話が『スマホ脳』を後押ししているのかも知れません。

悪い影響の 3 要点「画面のブルーライトによる睡眠の質低下」「逆に孤独感が高まる SNS」「集中力減少での思考力低下」を子どもに当てはめると、親としては大いに考えさせられます。タブレット端末などのデジタル機器は確かに便利ですが、映像で得た知識は身に付きにくいという事実を考慮して、学校では ICT 機器をバランスよく学習に利用していかなくてはならないと改めて考えさせられました。



◆ ディスプレイに縛られる子ども達

私も一員である福島県小学校長会という団体があります。先日、その団体が児童のインターネットやソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)との関わりを調査しましたが、本校の全校生も調査に参加しました。そこから、船引小の多くの児童がネットや SNS に夢中になっている実態が見えてきました。

ネット(動画サイトを見る、通信ゲームをやる、調べものをする等)や SNS(LINE, メール, チャット, ゲーム内チャット等)を利用している子は、全校生の 80 %を超えています。その中で最も多いのは、「動画サイトを見る」というものですから、YouTube やニコニコ動画、動画配信サイト等に夢中になっているのかも知れません。ネットや SNS を利用するための、自分用の機器を持っている子は、60 %以上に上ります。多くはプレイ・ステーションやニンテンドー・スイッチ等のゲーム機で動画や SNS に夢中になっている事が推測されます。



ネットや SNS を利用している時間も調べました。平日は半数以上の児童は 1 時間未満ですが、2 時間以上の児童は 20 %程おり、休日ともなると 40 %程になり、10 %の児童は 4 時間以上も利用しています。長時間の利用も問題ですが、利用時間などの家庭のルールを決めていないと答えた児童が 100 名おりました。ネット依存もゲーム依存も、スマホ依存同様に対処法は今のところ時間を制限する事だけのよう

です。依存状態にある子は日々攻撃的な性格になっていくとも言われますので今後が心配です。

田村市の中学生は、テレビを含めたディスプレイに向かう時間を 1 日 1 時間以内にしようと努力しています。現在の小学校の状況では家庭での学習時間を確保できない中学生が多く出てくるのではないかと心配し、学級では家庭でディスプレイに向かう時間をなるべく少なくするよう指導しています。

学校と家庭がタッグを組み、一つ(ハイブリッド)になって2倍以上の力(パワー)で効果的に子どもたちを育てたいと願い、校長室だよりを『船小ハイブリッドパワー』と名付けました。